

派遣先所属 福島県産業創出課  
 氏 名 水野 淳司 (みずの じゅんじ)  
 派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

福島県は、2011年3月の東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故による災害により、産業面でも生産活動の休止や事業所の県外移転、避難指示による休・廃業など、大きな打撃を受けました。

このため、復興の基本理念として、「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」を掲げ、「再生可能エネルギーの飛躍的推進」を重点施策に位置づけています。

具体的には2040年頃を目途に、「県内エネルギー需要量の100%以上に相当する量のエネルギーを再生可能エネルギーで生み出す」ことを目標としています。(2017年の実績は30.3%)

私の派遣先である商工労働部産業創出課は、その名のとおり新たな産業を生み出すことを目指し、課長以下16人で様々な取組を進めています。この中で私の属する再生可能エネルギー産業担当は、再エネ関連の製造業やメンテナンスなどの産業の集積と雇用の創出をミッションとしています。

平成30年度は主幹以下7名体制で、産学官の連携によるネットワークの形成、県内企業の技術の高度化、海外(ドイツ等)を含めた販路開拓、人材育成などの業務を担っています。

グループのうち自治法派遣職員が北海道、東京都、埼玉県(私)の3人でしたが、北海道からの派遣職員は北海道胆振東部地震の対応の一環で、9月末で道庁に帰任しました。

私の主な担当業務は、再エネ人材育成のための補助金交付、福島大学と連携した再エネ講座の開催、技術開発に係る補助金の執行管理(エネルギー分野・環境リサイクル分野)、再生可能エネルギー関連の首都圏展示会への出展、バイオマス発電に係る企業グループの支援です。

グループ全体では、今年で第7回目となるビッグイベント、「ふくしま再生可能エネルギー産業フェア」の開催を目前に控え、忙しさに拍車がかかっています。

The image displays several promotional materials for the REIF Fukushima 2018 event. On the left, there is a website registration page titled 'REIF ふくしま2018 イベント申し込み方法' (REIF Fukushima 2018 Event Registration Method). It provides the website URL <http://reif-fukushima.jp/> and lists various activities such as an opening seminar, a business matching event, and a presentation. Below this, there is a summary of the 2017 event, noting 192 companies, 280 booths, and 17,040 attendees. In the center, a large poster for 'REIF ふくしま2018' features the event logo and dates: November 7th and 8th, 10:00-17:00. The poster also highlights '入場無料' (Free Admission) and 'ビッグパレットふくしま' (Big Palette Fukushima). On the right, there is a brochure titled '福島新エネ社会構想' (Fukushima New Energy Society Vision), which describes the goal of creating a new energy future through smart energy, water-based energy, and smart communities. The brochure includes the slogan '未来を創る新たなエネルギーの先進地へ' (Towards a leading region in creating a new energy future) and lists the organizers: Fukushima Prefecture and Fukushima Institute of Energy and Environmental Studies.

私は埼玉県庁を定年退職後、再任用職員として福島県にお世話になっています。これまでの行政経験が少しは役立つのではと考えていましたが、初めての業務、様々なシステムの違い、不案内な地理などから、戸惑いを覚えることも少なくなく、改めて勉強の必要性を痛感しています。

しかし、基礎的な質問にも周囲の皆さんは親切に教えてくださり、居心地良く仕事ができていることに、心から感謝しています。年度末に向けて、仕事量が増えることが想定されますが、与えられた職責が全うできるよう頑張りたいと思っています。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

福島県全体が風評被害も含め原子力災害の被災地であることは間違いありませんが、ハード面など目に見える被災地ということでは、依然として帰還困難区域等が存在する福島第一原発周辺の市町村が該当すると思われます。

私の担当業務では、復興の状況を間近に体感することは多くありませんが、5月に初めて浜通りの南相馬市に出張した際には、津波の爪痕の一部や防潮堤の工事現場なども垣間見ることができました。

また、9月には商工労働部の派遣職員を対象とした浜通りの視察研修を実施してもらいました。一部帰還困難区域が残る富岡町への視察では、ボランティアとして災害の語り部活動をされている女性から、震災や原発事故当時の状況や現状についての本音を話していただき、改めて復興の困難さを知ることができました。

震災前には人口約16,000人だった富岡町は、昨年4月に一部を除き居住制限が解除されたものの、現段階で約800人しか町民が戻っていないとのこと。避難先での新たな生活が落ち着き、気持ちは戻りたくても現実的には戻れない人も多いようです。震災後7年半という時間の重みを感じざるを得ません。

しかし、復興に向けた光が着実に射してきているのも確かです。日本サッカーの聖地と言われるJヴィレッジが今年7月に一部営業を再開しました。不通となっていた常磐線の浪江～富岡間が2020年3月に復旧予定となるなど明るい話題も増えています。

浜通りの新たな産業基盤の構築を目指す国家的プロジェクトである「福島イノベーション・コースト構想」の環境・リサイクル分野も私の担当ですので、力不足ながらも少しでも貢献ができればと考えています。



※ふくしま復興の歩みスライド版より引用

### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島市を生活の中心とするようになり半年以上が過ぎました。これまでの福島暮らしで感じたことを紹介します。

#### (1) 福島県の広さ

福島県の面積は13,783平方キロメートルで、北海道、岩手県に次いで全国第3位の広さです。日本人の3割しか知らない部類ではないでしょうか。

月1回のペースの会議が茨城県に近いいわき市郊外であるのですが、北部の福島県庁からは、公用車で東北道、磐越道の高速道路で片道約2時間半かかります。仕事で最初に広さを実感した部分です。

#### (2) 豊かな自然と温泉

3月末に新幹線の福島駅に初めて降りたとき、雪が残った西側の山並みが間近に見えることに驚きを覚えました。これが吾妻連峰と安達太良連峰であり、無料のスカイラインが通っています。最高地点は標高1600mを超えますが、福島市内から車で1時間少しかで行くことができます。ただし、この9月に吾妻山の噴火警戒レベルが2に上がり、現在全面通行止めになってしまい、紅葉が楽しめないのは本当に残念です。



※現在通行止めの磐梯吾妻スカイライン



※磐梯山頂から猪苗代湖を望む

有名な飯坂温泉を始め県内には50以上の温泉地があります。安達太良山や磐梯山もそれぞれ温泉巡りの翌日に登りましたが、幸い天候に恵まれて山頂に立て、雄大な景色を満喫することができました。冬の福島はこれから初体験することになりますが、温泉で雪見酒なども風情有りそうです。

#### (3) 美味しい日本酒、地元料理、果物など

味音痴と言われる私でさえ実感するほど、美味しいものが揃っています。詳細は他の福島県派遣職員が紹介すると思うので、そちらをご覧ください。

#### (4) 歴史と伝統

茅葺き屋根が軒を連ねる大内宿、勇壮な相馬野馬追（南相馬市からの派遣職員のおかげで武者行列を間近に見物できました）、鶴ヶ城など、歴史と伝統に触れられる場所も枚挙に暇がありません。

#### (5) 県民性

福島県は、南北に延びる山地を境に、浜通り、中通り、会津の3つの地域に分けられることが多く、天気も県民性も3つの地域で異なると言われています。

その違いは私にはまだわかりませんが、職員を始め福島県の皆さんは、真面目で頑張り屋、

かつ人に優しい、という印象です。

震災と原子力災害という過酷な状況を経験し、復興に向け困難な課題に挑戦するという強い思いを秘めている気がします。

最後に、私の派遣を認めていただいた埼玉県並びに受け入れていただいた福島県の皆様にお礼を申し上げます。特に福島県では派遣職員の歓迎会や研修会などの交流の機会を多く設けていただき、他県の職員とも知り合いができました。

また、職場の皆さんには飲み会や、相馬野馬追い、芋煮会などのイベントにもお誘いいただき、楽しい時間を過ごすことができています。

福島県は、私の第二のふるさとになっていることは間違いなく、これからも福島の実状と魅力を私なりに発信していくつもりです。是非皆様も福島県へお越しください。お待ちしております。

(平成30年10月作成)